

年度計画【001】

中期計画 学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「人類知の継承」を図り、「科学的・学問的思考」を修得するための教育課程を整備する。

中期計画の意図するところ

- ・ DP（ディプロマ・ポリシー）「人類知の継承」と DP「科学的・学問的思考」をねらいとする授業が適切に配置されている。
- ・ そのことが学部・学科のカリキュラムマップで確認できる。
- ・ DP「人類知の継承」と DP「科学的・学問的思考」をねらいとする授業の大半が共通教育の授業科目で占められていても差し支えない。

24 年度計画 授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について検討し、順次実施する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について高等教育研究センターにおいて素案を作成し、教学専門委員会で検討し、測定を実施する。

【部局に実施を依頼する事項】

旧：DP の項目について、どのように達成状態を計測しているかという情報を提供してもらう。

新：（必要があれば高等教育研究センターと相談しながら）DP の項目について、どのように学習成果を計測しているか、または今後計測していくか、という情報を提供してもらう。

報告作成の手順は、例えば次のようなものが考えられます。

1. DP 各項目の学習成果について、学部の先生方の今すでにやっていたりやる計測の実践事例を集めていただく
2. （必要があれば高等教育研究センターと相談しながら、必要に応じて）授業形態・授業目的・成績評価の方法等に応じた計測の仕方に関する概略的な報告を作成していただく

【001】が対象とする DP 項目

人類知の継承

■ 人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】

■ 世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】

■ 科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

科学的・学問的思考

■ 自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】

■ 専門学問分野における知識・技能を備え、それらに応用できる【専門知識と応用力】

■ 専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

■大学全体としての進捗状況の判定基準 Ⅱ：遅れている，Ⅲ：順調，Ⅳ：進んでいる

判定Ⅱ DP「人類知の継承」と「科学的・学問的思考」の学習成果をどのように計測しているかについての部局からの報告を取りまとめる形で，高等教育研究センターがディプロマ・ポリシーの学習成果に関する指標についての素案を作成しているが，それを実施している部局はない。

判定Ⅲ 判定Ⅱの素案を実施している部局がある。

判定Ⅳ 判定Ⅱの素案を実施している部局が数多くある。

DP の項目について，どのように学習成果を計測しているか，または今後計測していくかについて簡単にご報告願います。

年度計画【001】の報告

DP 全体

（記入例： DP が授業目的と合致する場合には，成績評価がそのまま当該 DP の学習成果になると考えている。そうでない場合には，受講生の自己評価アンケートによって授業ごと・DP ごとに計測している）

【人類知の継承と未来創造マインド】

（記入例： 授業で扱った知識を期末試験で問うている）

【多様な文化受容マインド】

【科学リテラシー】

（記入例： 授業で扱ったその学問分野基本的な考え方・手法を前提とする実技試験を課している）

【普遍的・数量的理解力】

（記入例： 授業で扱った尺度や指標の理解を前提とする演習問題を期末試験で課している）

【専門知識と応用力】

【専門外の知識】

（記入例： 卒業時の満足度調査で，専門外の知識の獲得について自分でどう判断しているかを聞いている）

（作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。）

年度計画【002】

中期計画 学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「豊かな人間性」を涵養し、「社会人としての基礎力」を修得するための教育課程を整備する。

中期計画の意図するところ

- ・ DP（ディプロマ・ポリシー）「豊かな人間性」と DP「社会人としての基礎力」をねらいとする授業が適切に配置されている。
- ・ そのことが学部・学科のカリキュラムマップで確認できる。
- ・ DP「豊かな人間性」と DP「社会人としての基礎力」をねらいとする授業の大半が共通教育の授業科目で占められていても差し支えない。

24 年度計画 授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について検討し、順次実施する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について高等教育研究センターにおいて素案を作成し、教学専門委員会で検討し、測定を実施する。

【部局に実施を依頼する事項】

旧：DP の項目について、どのように達成状態を計測しているかという情報を提供してもらう。

新：（必要があれば高等教育研究センターと相談しながら）DP の項目について、どのように学習成果を計測しているか、または今後計測していくか、という情報を提供してもらう。

報告作成の手順は、例えば次のようなものが考えられます。

1. DP 各項目の学習成果について、学部の先生方の今すでにやっていたりしやる計測の実践事例を集めていただく
2. （必要があれば高等教育研究センターと相談しながら、必要に応じて）授業形態・授業目的・成績評価の方法等に応じた計測の仕方に関する概略的な報告を作成していただく

【002】が対象とする DP 項目

豊かな人間性

■みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】

■理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

社会人としての基礎力

■日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】

■対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】

■多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】

■みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

■大学全体としての進捗状況の判定基準 Ⅱ：遅れている，Ⅲ：順調，Ⅳ：進んでいる

判定Ⅱ DP「豊かな人間性」と「社会人としての基礎力」の学習成果をどのように計測しているかについての部局からの報告を取りまとめる形で、高等教育研究センターがディプロマ・ポリシーの学習成果に関する指標についての素案を作成しているが、それを実施している部局はない。

判定Ⅲ 判定Ⅱの素案を実施している部局がある。

判定Ⅳ 判定Ⅱの素案を実施している部局が数多くある。

DP の項目について、どのように学習成果を計測しているか、または今後計測していくかについて簡単にご報告願います。

年度計画【002】の報告

【自己認識・自己啓発マインド】

（記入例： キャリア教育の一環として、チューターが学生と面談する際に、学生のポートフォリオと一緒に見て自己認識ができているかどうか確認している）

【社会的行動マインド】

（記入例： その授業で学んだことの社会的な意義を考えるレポートを課している）

【言語能力】

【コミュニケーション能力，チームワーク力，リーダーシップ】

（記入例： グループワークを取り入れている授業で、受講生にこの項目に関する自己評価を聞いている）

【情報活用力】

【問題発見・解決能力】

（記入例： みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できているかどうか卒業論文の採点基準に含まれている）

（作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。）

年度計画【003】

中期計画 学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「環境基礎力」及び「環境実践力」を修得するための教育課程を整備する。

中期計画の意図するところ

- ・ DP（ディプロマ・ポリシー）「環境基礎力」と DP「環境実践力」をねらいとする授業が適切に配置されている。
- ・ そのことが学部・学科のカリキュラムマップで確認できる。
- ・ DP「環境基礎力」と DP「環境実践力」をねらいとする授業の大半が共通教育の授業科目で占められていても差し支えない。

24 年度計画 授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について検討し、順次実施する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の学習成果の測定方法について高等教育研究センターにおいて素案を作成し、教学専門委員会で検討し、測定を実施する。

【部局に実施を依頼する事項】

旧：DP の項目について、どのように達成状態を計測しているかという情報を提供してもらう。

新：（必要があれば高等教育研究センターと相談しながら）DP の項目について、どのように学習成果を計測しているか、または今後計測していくか、という情報を提供してもらう。

報告作成の手順は、例えば次のようなものが考えられます。

1. DP 各項目の学習成果について、学部の先生方の今すでにやっつけらっしゃる計測の実践事例を集めていただく
2. （必要があれば高等教育研究センターと相談しながら、必要に応じて）授業形態・授業目的・成績評価の方法等に応じた計測の仕方に関する概略的な報告を作成していただく

【003】が対象とする DP 項目

環境マインド

- 信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- 自然及び人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- 地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

■大学全体としての進捗状況の判定基準 Ⅱ：遅れている，Ⅲ：順調，Ⅳ：進んでいる

判定Ⅱ DP「環境基礎力」と「環境実践力」の学習成果をどのように計測しているかについての部局からの報告を取りまとめる形で，高等教育研究センターがディプロマ・ポリシーの学習成果に関する指標についての素案を作成しているが，それを実施している部局はない。

判定Ⅲ 判定Ⅱの素案を実施している部局がある。

判定Ⅳ 判定Ⅱの素案を実施している部局が数多くある。

DP の項目について，どのように学習成果を計測しているか，または今後計測していくかについて簡単にご報告願います。

年度計画【003】の報告

【地域環境に関する理解】

(記入例： 信州の自然・文化的環境に関する知識・理解を問うレポート課題を課している)

【環境基礎力】

(記入例： 環境問題を主内容として扱う授業で単位を取得している)

【環境実践力】

(記入例： 環境内部監査員の資格を取得している)

(作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。)

年度計画【004】

中期計画 信州の自然，歴史，文化を素材とした教育やフィールド学習を推進する。

中期計画の意図するところ

- ・信州の自然，歴史，文化を素材とした教育やフィールド学習を，環境マインド教育の一環として推進する。

24年度計画 信州の自然，歴史，文化を素材として活用する教育やフィールド学習を推進し，環境マインド教育の充実につなげる。

【平成24年度計画の想定する達成状態】

- ・「信州の自然，歴史，文化を素材として活用する教育やフィールド学習」の授業実施状況が確認されている。
- ・学習成果・教育成果を報告・公表している。

【部局に実施を依頼する事項】

- ・シラバス検索から読みとれないような重要な情報があれば提供してもらう。

◎先生方へのお願い

この中期計画に関係する授業では，「信州」・「フィールド学習」・「環境マインド教育」という言葉をシラバスに盛り込んでくださいますと大変助かります。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 Ⅱ：遅れている，Ⅲ：順調，Ⅳ：進んでいる

判定Ⅱ 信州の自然，歴史，文化を素材として活用する教育やフィールド学習が展開されている

判定Ⅲ 信州の自然，歴史，文化を素材として活用する教育やフィールド学習が23年度より充実している

注：「充実」の内容は，開講数だけでなく，中期目標にある『環境マインド』への意識的な関係づけがシラバスから確認できる，という内容面も想定している

判定Ⅳ 環境マインド教育の全学的なマネジメント体制が整備され，統一副読本の企画等，環境教育に関しての全学的な企画・立案が始まっている

信州の自然，歴史，文化を素材として活用する教育やフィールド学習に関して，シラバス検索から読みとれないような重要な情報がもしあればご報告ください。

(※該当する取組がない場合には，該当がない旨をご記入ください。)

年度計画【004】の報告

(スペースは適宜調整してください。)

年度計画【005】

中期計画 学位授与の方針に基づき、各研究科においてそれぞれの専門領域に加え、情報収集・分析能力、グローバルな情報発信能力を高めるための教育課程を整備する。

中期計画の意図するところ

- ・地域社会及び国際社会で活躍できる語学力、情報収集・分析能力を高める教育課程を整備する。
- ・個々の授業で、それぞれの専門領域で必要とされる情報収集能力・分析能力・発信能力に磨きをかける。

24 年度計画 理工学系研究科及び医学系研究科（博士課程）において改組に伴い整備した教育課程を開始するとともに、重点的にグローバルな情報発信能力を高める方策について引き続き検討する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・理工学系研究科及び医学系研究科（博士課程）において、それぞれの専門領域に加え、情報収集・分析能力、グローバルな情報発信能力を高めるための教育課程を開始している。
- ・また、重点的にグローバルな情報発信能力を高める方策について引き続き検討している。
- ・情報収集・分析能力またはグローバルな情報発信能力に関して該当するシラバス等に盛り込まれている。
- ・（平成 23 年度の実施状況を見て）履修プロセス概念図の公表を検討する。
- ・大学院共通科目（特にグローバルな情報発信能力に関する科目）の検討が進んでいる。
- ・履修プロセス概念図により研究科の DP 等と授業の配置に齟齬がないかの検証を継続する。（恒常的な検証手段とする）
- ・引き続き、能力を高めるための教育内容についての検討を行い、新たな案があれば実施する。

旧 【部局に実施を依頼する事項】

- ・引き続き、履修プロセス概念図により、研究科の DP 等と授業の配置に齟齬がないかの検証を継続する。
- ・引き続き、能力を高めるための教育内容についての検討を行い、新たな案があれば実施する。

新 【部局に実施を依頼する事項】

- ・引き続き、履修プロセス概念図により、研究科の DP 等と授業の配置に齟齬がないかの検証を継続する。
- ・グローバルな情報発信能力を高めるための教育内容についての検討を行い、新たな案があれば実施する。
- ・情報収集・分析能力またはグローバルな情報発信能力に関係する授業では、「情報収集能力」「分析能力」「（グローバルな）情報発信能力」というキーワードをシラバスに積極的に盛り込む。

◎先生方へのお願い

- ・大学院の授業では、「情報収集能力」・「分析能力」・「グローバルな情報発信能力」という言葉をシラバスに盛り込んでくださいますと大変助かります。
- ・24年度は、大学の方針として、特に「グローバルな情報発信能力」を重点的に整備していく計画を立てています。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 Ⅱ：遅れている，Ⅲ：順調，Ⅳ：進んでいる

判定Ⅱ 「グローバルな情報発信能力」を育てる組織的な取り組みが進んでいない

判定Ⅲ 「グローバルな情報発信能力」を育てる組織的な取り組みが進んでいる

判定Ⅳ 「グローバルな情報発信能力」を育てる組織的な取り組みが大いに進んでいる

グローバルな情報発信能力を高めるための教育内容について検討した内容，もしくは実施した新たな取り組みがもしあれば報告をお願いします。

年度計画【005】の報告

（記入例： 研究科の授業では，レポートは原則英語で書かせることを研究科の努力目標とした。）

（記入例： 大学院の授業では，「情報収集能力」・「分析能力」・「グローバルな情報発信能力」という言葉をできるだけシラバスに盛り込むよう教員に依頼した。）

（作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。）

中期計画 学士課程において成績評価分布の公表により成績評価の厳格化を進めるとともに、その上で GPA 制度等の活用を図る。

中期計画の意図するところ

- ・会議等で成績評価分布を題材にした話し合いが行われており、そこで極端な成績の偏り等がないこと、もしくは偏りがあったとしてもそれには正当な理由があること、等が互いに確認されていることをもって、成績評価が厳格に行われていることの証左とする。
- ・GPA 導入を通して成績というものに教員と学生がもう一度向き合い、成績評価の透明性の確保への意識を高める。

透明な成績評価：

- ①個々の授業で、成績評価の基準が受講生に了解されている
- ②テストを複数回実施し、その都度自分の持ち点が何点であるか受講生が分かっている

(GPA 導入そのものは成績評価の厳格化には直結しない)

24 年度計画 平成 23 年度に決定した方針に基づき、全学士課程における成績評価の厳格化の手段として成績評価分布を公表する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・全学士課程における成績評価の厳格化の手段としての成績評価分布の公表が実施されている。

【部局に実施を依頼する事項】

旧 (記載もれ)

新 成績評価分布の公表の仕方と、公表により何が得られているか、を報告していただく。

例： 「成績評価分布を近隣講座の教員間で共有し議論することで、成績のつけ方と成績評価の透明度の確保についての教員の意識が高まった、という報告を受けている。」

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている、III：順調、IV：進んでいる

判定 II 成績評価分布の公表に関しての報告がない部局がある

判定 III 全ての部局から成績評価分布の公表に関して報告されている

判定 IV 部局からの報告で、成績評価分布の公表が FD で活用されており、その FD が成績評価の厳格化に結びついていることが確認されている

成績評価分布の公表の仕方と、公表により何が得られているかについて、ご報告ください。

年度計画【006】の報告

（記入例： 「成績評価分布を近隣講座の教員間で共有し議論することで、成績のつけ方と成績評価の透明度の確保についての教員の意識が高まった、という報告を受けている。」

（作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。）

中期計画 学士課程において成績評価分布の公表により成績評価の厳格化を進めるとともに、その上で GPA 制度等の活用を図る。

中期計画の意図するところ

- ・ 会議等で成績評価分布を題材にした話し合いが行われており、そこで極端な成績の偏り等がないこと、もしくは偏りがあったとしてもそれには正当な理由があること、等が互いに確認されていることをもって、成績評価が厳格に行われていることの証左とする。
- ・ GPA 導入を通して成績というものに教員と学生がもう一度向き合い、成績評価の透明性の確保への意識を高める。

透明な成績評価：

- ① 個々の授業で、成績評価の基準が受講生に了解されている
- ② テストを複数回実施し、その都度自分の持ち点が何点であるか受講生が分かっている

(GPA 導入そのものは成績評価の厳格化には直結しない)

24 年度計画 GPA 制度の導入に向けて成績の素点化を実施するとともに、GPA のシミュレーションを実施し、GPA の活用方法と、GPA 制度に関わる諸制度の検討を行う。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・ 成績評価の素点化が開始されている。
- ・ 高等教育研究センターにおいて、成績データをもとにシミュレーションを実施し、D 評定の必要性や効果等、原案について検討が行われている。
- ・ GPA 制度について、教職員に対し、部局懇談会、FD、並びに高等教育研究センターWEB ページ等により、理解・浸透が図られている。
- ・ GPA に関する検討状況を発信し、部局からのフィードバックを得ている。

【部局に実施を依頼する事項】

- ・ GPA 制度に関して、部局からのフィードバックを求める。

◎先生方へのお願い

よりよい GPA の制度作りを目的とするシミュレーションを行うため、平成 24 年度からは、成績を素点で入力してくださいようお願いすることになりました。なお、「優」や「可」といった評定は、素点に従って自動的に入力されます。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II GPA のシミュレーションを実施していない

GPA の活用方法と GPA 制度に関わる諸制度の検討が十分ではない

判定III GPA のシミュレーションを実施している

部局からのフィードバックを踏まえ，GPA の活用方法と GPA 制度に関わる諸制度
が検討がされている

判定IV GPA の活用方法と GPA 制度に関わる諸制度のうち，できるものから前倒し実施す
る準備が整っている

GPA 制度について，学部としてのご意見・ご要望をお知らせください。また，他国・他大学で
の GPA に関する情報等をご提供いただけましたら大変助かります。

年度計画【007】のご意見，ご要望，情報提供

(スペースは適宜調整してください。)

年度計画【008】

中期計画 修士課程及び博士課程の修了審査体制を充実させ、審査の厳格化を図る。

中期計画の意図するところ

- ・「審査の厳格化」とは、学位審査・修了審査の透明性が確保されていることと解釈する。

24 年度計画 平成 23 年度に確認した、修士課程及び博士課程の修了審査の厳格化に関する方策に基づき、修了審査を行うとともに、その検証を行う。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・審査の厳格化に関する方策の実施状況の検証を行う。
- ・(平成 23 年度の実施状況を見て) 透明性の担保の手段として、履修プロセス概念図の公表を検討する

【部局に実施を依頼する事項】

旧： 審査の厳格化に関する方策の確実な実施（より良い新規の取組みがあれば実施と履修プロセス概念図の更新）

新： 審査の厳格化に関する方策を確実に実施した上で、その方策が適正であるかどうかを報告する。またより良い新規の取組みがあればそれを反映する形で履修プロセス概念図を更新する。

注：24 年度の達成状態として、履修プロセス概念図を公表する，ということを想定しています。そのため、履修プロセス概念図の公表を大学院教務委員会で検討していくこととなると思われます。ご承知おきください。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II 平成 23 年度に確認した、修士課程及び博士課程の修了審査の厳格化に関する方策に基づき修了審査が行われている。

判定III 修了審査の厳格化に向けての有効な措置を取ることにについての検討が進んでいることが、全部局からの報告で確認できている

判定IV

審査の厳格化に関する方策を確実に実施した上で、その方策が適正であるかどうかを検討していただき、その検討結果をご報告ください。

年度計画【008】の報告

（記入例１： 「履修プロセス概念図に盛り込んだ方策を実施し、またそれらの方策について問題がないことを確認した。」）

（記入例２： 「履修プロセス概念図に盛り込んだ方策を実施し、その方策のうち〇〇に改善の必要があったので検討の結果△△という形に改めた。それに合わせて履修プロセス概念図を更新した。」）

（作業時には記入例は削除してください。残していただく必要はありません。またスペースは適宜調整してください。）

中期計画 学内外からの意見を踏まえ、教育課程を不断に見直すための体制を充実させる。

中期計画の意図するところ

- ・大学の中と外から意見聴取し、教育課程の改善にそれを生かす体制を充実させる。

24 年度計画 高等教育研究センターを中心とした体制により、教育課程の見直しに資するため、大学として学生及び卒業・修了生を対象とした調査の準備を行う。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・各種アンケート調査を一本化し、定点観測するための体制が構築されている。
- ・大学生調査研究プログラム（JCIRP）への参加等による実情把握を行っている。

【部局に実施を依頼する事項】

部局独自の意見聴取の取組を報告してもらう。

解説

・この年度計画は、少なくとも学生及び卒業・修了生を対象とした調査に関しては、定点観測をし経年調査ができるよう、大学として方針をもってそのような調査を実施する体制を作る、ということを意図しています。

・23 年度には、各部局における「教育課程を不断に見直すための体制」について確認しましたが、それは調査結果を見直しにつなげるための体制であり、今年度のねらいとは別のものです。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II 大学として学生及び卒業・修了生を対象とした調査をする準備が進んでいない

判定III 大学として学生及び卒業・修了生を対象とした調査をする準備が進んでいる

判定IV 大学として学生及び卒業・修了生を対象とした調査をする準備が進んでおり、いくつかの調査はすでに実施した

学生及び卒業・修了生を対象とした調査のうち，学部独自の取組があればそれについてご報告ください。（※該当する取組がない場合には，該当がない旨をご記入ください。）

年度計画【009】の報告

（スペースは適宜調整してください。）

年度計画【013】

中期計画 本学の果たすべき教育機能を強化するため、教育実施体制について検証を行い、これを踏まえた見直しを行う。

中期計画の意図するところ

- ・教育組織等の改編を行う。

24 年度計画 引き続き、教育実施体制の見直しを推進する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・各組織の教育実施体制の見直しの検討が進んでいる。
- ・総合工学系研究科リーディング大学院の取り組みが検討されている。

【部局に実施を依頼する事項】

旧： 教育体制の見直しに関して報告すべきことがあれば報告してもらう。

新： 教育体制の見直しに関して報告すべきことがもしあれば報告してもらう。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II

判定III

判定IV

教育体制の見直しに関して報告すべきことがもしあればそれについてご報告ください。
(※該当する取組がない場合には、該当がない旨をご記入ください。)

年度計画【013】の報告

(スペースは適宜調整してください。)

中期計画 大学としての教育力を向上させるために学部を越えた連携を進めるとともに、県内外の大学との連携を推進する。

中期計画の意図するところ

- ・教育実施体制の強化と教育力の向上を目的に，
 - 学部間で授業を共同開講する，等の学部間連携を進める
 - 『高等教育コンソーシアム信州』を中心として、長野県内他大学との連携を進める
 - 県外の大学と授業を共同開講する等の連携を進める
 - 国外の大学と授業を共同開講する等の連携を進める
 - FD を共同実施し教育力向上をめざす

24 年度計画 平成 23 年度までに実施した連携を継続するとともに、大学としての教育力向上のため、学部を越えた新たな連携方策を検討する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

高等教育研究センター，教育・学生支援連携会議，全学教育連携会議等において，学部を超えた連携に関する具体策が提案されている。

【部局に実施を依頼する事項】

旧： 教育力向上のための部局を越えた連携事業があれば報告してもらう。

新： 教育力向上のための部局を越えた連携事業がもしあれば報告してもらう。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II 高等教育研究センター，教育・学生支援連携会議，全学教育連携会議等において，学部を超えた連携に関する具体策が提案されていない

判定III 高等教育研究センター，教育・学生支援連携会議，全学教育連携会議等において，学部を超えた連携に関する具体策が提案されている

判定IV 上記とは別に，部局間での新しい連携方策が進んでいる

教育力向上のための部局を越えた連携事業がもしあればそれについてご報告ください。
(※該当する取組がない場合には、該当がない旨をご記入ください。)

年度計画【014】の報告

(スペースは適宜調整してください。)

中期計画 大学としての教育力を向上させるために学部を越えた連携を進めるとともに、県内外の大学との連携を推進する。

中期計画の意図するところ

- ・教育実施体制の強化と教育力の向上を目的に，
学部間で授業を共同開講する，等の学部間連携を進める
『高等教育コンソーシアム信州』を中心として、長野県内他大学との連携を進める
県外の大学と授業を共同開講する等の連携を進める
国外の大学と授業を共同開講する等の連携を進める
FD を共同実施し教育力向上をめざす

24 年度計画 平成 23 年度までに実施した県内外の大学との連携を継続するとともに、さらなる教育力の向上を図るための連携を検討する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・県内大学との遠隔授業を継続実施している。
- ・コンソーシアム内の大学間での FD 活動を実施している（遠隔講義システムを使用した FD 活動を含む）。
- ・コンソーシアム外の高等教育機関との教育力の向上を図るための取組に関する検討を行っている。

【部局に実施を依頼する事項】

- ・他大学との教育力の向上を図るための取組について、部局独自の取組があれば報告してもらう。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II コンソーシアム等において大学間の連携取り組みが継続実施されている

判定III コンソーシアム等において大学間の連携取り組みが継続実施されており，さらなる教育力の向上を図るための連携に関して検討結果が出ている

判定IV 上記の検討結果が飛躍的なものである

他大学との連携によって教育力の向上を図るための取組について、部局独自の取組があればそれについてご報告ください。

(※該当する取組がない場合には、該当がない旨をご記入ください。)

年度計画【015】の報告

(スペースは適宜調整してください。)

中期計画 大学教員の教育に関する資質・能力を高める研修プログラムを実施する。

中期計画の意図するところ

- ・教員のキャリアパスとは、新任から定年まで、教員のキャリアのそれぞれの段階で必要になる知識、技術、対人スキルがある。この中期計画は、そのような教員の「キャリアパス」を重視した研修プログラムを意図している。
- ・イベント的な FD 会と平行して、教員どうしが教育を話題にすることによる日常的な FD を重視する。

24 年度計画 教員の資質・能力を高める体系性を持った FD プログラムについて成案を得る。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・教員の資質・能力を高める体系性を持った FD プログラムについて教育研究評議会において了承されている。

【部局に実施を依頼する事項】

(記載なし)

◎先生方へのお願い

今年度からは、高等教育研究センターが提供する FD については、こちらで用意したメニューからお選びいただき出張する、という形で進めてまいります。メニューについては同センターのウェブサイトでご確認できます。学部単位だけでなく、5 人以上の方からご要望をいただければ出張いたします。お気軽にご利用ください。

なお、24 年度は特に次のものを重点的に進めていく計画を立てています。

- ・青年期の心理と認知の仕組みに関する FD
- ・成績評価の仕方と GPA のあり方・考え方に関する FD

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている、III：順調、IV：進んでいる

判定 II 教員の資質・能力を高める体系性を持った FD プログラムについて成案を得られていない

判定 III 教員の資質・能力を高める体系性を持った FD プログラムの成案が得られている

判定 IV 教員の資質・能力を高める体系性を持った FD プログラムの成案に従って FD が実施されている

学部独自の FD 活動のうち、教員のキャリアパスを重視した研修プログラムがあれば報告してください。（※該当する取組がない場合には、該当がない旨をご記入ください。）

なお、高等教育研究センターによる FD を利用した場合はご報告いただくには及びません。

年度計画【016】の報告

（スペースは適宜調整してください。）

年度計画【041】

中期計画 地域社会及び産業界の要請に柔軟に対応するため、大学院研究科を中心に社会人教育を充実させる。

中期計画の意図するところ

- ・この中期計画では、23年度までは正課を対象とするとしていたが、24年度からは、正課外も対象とするよう解釈を広げた。
- ・ただし、出前講座、放送公開講座、市民開放授業等は【年度計画 042】の対象である。

24年度計画 地域社会及び産業界の要請に柔軟に対応するため、社会人教育プログラムを充実する。

【平成 24 年度計画の想定する達成状態】

- ・地域社会及び産業界の要請に柔軟に対応するため、社会人教育プログラムを充実している。

【部局に実施を依頼する事項】

- ・社会人教育を行っている大学院については、カリキュラムの検証を行うとともに、引き続きカリキュラムの充実について検討する。(恒常的に PDCA サイクルをまわす)

解説

・「カリキュラムの検証」では、具体的には入学・修了の状況や満足度調査等が考えられます。必要でしたら高等教育研究センターにご相談ください。

・この年度計画は、23年度までは、大学院の正規の授業を対象としていましたが、24年度からは、「特別の課程」のような正課ではないものも対象とすることになりました。年度計画中の「社会人教育プログラム」という表現の意味はそうようにご理解願います。

■大学全体としての進捗状況の判定基準 II：遅れている，III：順調，IV：進んでいる

判定II

判定III

判定IV

社会人教育を行っている大学院については、カリキュラムの検証の結果と、カリキュラムの充実について検討した結果についてご報告ください。

(※該当する取組がない場合には、該当がない旨をご記入ください。)

年度計画【041】の報告

(スペースは適宜調整してください。)